

# 油症患者に係る健康実態調査結果の報告(概要)

## 油症患者健康実態調査の解析に関する懇談会

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

本調査は、平成19年4月与党カネミ油症問題対策プロジェクトチーム(当時)の決定に基づき、「カネミ油症のダイオキシン類の直接の経口摂取による健康被害という特殊性を考慮し、油症研究の加速的推進に資する」ことを目的として実施した。

#### (2) 調査対象

平成19年4月24日時点で生存している認定患者及び平成20年度に新たに認定された者計1,420人。

#### (3) 調査実施年度

平成20年度

#### (4) 調査項目

本人に関する事項(生年月日・生活習慣など)、健康状態・病気・症状等に関する事項、治療・療法等に関する事項、家族に関する事項(子・孫含む)など。

なお、調査項目は、患者団体の代表・自治体・有識者等による議論を経て決定した。

#### (5) 調査方法

ア 厚生労働省から、油症患者が在住する31都府県に本調査を委託

イ 各都府県は、油症患者に調査票等を送付し、調査に協力いただける場合は、本人もしくは家族等が調査票等に記入の上、各都府県に返送

ウ 返送された調査票について、調査員等が内容を確認し、必要に応じて、調査協力者、かかりつけの医師等に照会

エ 各都府県においてデータの入力及び整理を行い、その結果を厚生労働省へ提出

#### (6) 調査の実施状況

各都府県で把握している調査対象者1,420人のうち、従前から油症に関する連絡を拒否している者、事前の意向確認にて調査に協力しない旨の回答を得た者及び所在不明の者を除いた1,331人に対し、「同意書」、「連絡票」、「調査票」等を郵送し調査を実施した。そのうち、回答のあった者は1,131人、回収率は85.0%(男86.1%、女84.0%)であった。

本報告は、本調査に回答した1,131人についてとりまとめた。

#### (7) 調査結果の活用

本調査については、ご高齢の対象者も多く記憶が不鮮明であることから一部調査が困難であった。また、医学的・科学的解析を行ううえでさまざまな点で限界があった。し

かしながら、本調査結果を解析することにより、油症発症当時から現在までのご家族の状況を詳細に把握することが可能となった。

今後、本調査結果については、全国油症治療研究班（厚生労働科学研究費補助金による）において、これまでの検診結果等と併せてより詳細な解析が行われる予定である。また、当該研究班の相談員の活動においても、本調査の情報が活用される予定である。

## 2 調査結果の概要

### (1) 性別

- ・ 男性 550 人 女性 581 人

### (2) 年齢

- ・ 平均年齢は、61.7 歳（男性 60.1 歳、女性 63.1 歳）であった。
- ・ 男性は、「45～49 歳」の者が 14.4%と最も多く、次いで、「50～54 歳」が 13.1%、「40～44 歳」が 11.1%等の順であった。
- ・ 女性は、「45～49 歳」の者が 13.3%と最も多く、次いで、「50～54 歳」が 11.7%、「70～74 歳」が 10.3%等の順であった。

### (3) 生活習慣について

- ・ 1日の歩行時間についてみると、「1～2 時間」と回答した者が 22.7%と最も多く、次いで、「30 分～1 時間未満」が 20.3%、「30 分未満」が 14.8%等の順であった。
- ・ 運動(スポーツ)頻度についてみると、「ほとんどしていない」と回答した者が 49.1%と最も多く、次いで、「ほぼ毎日」が 15.5%、「週 1 回程度」が 14.3%等の順であった。
- ・ 飲酒頻度についてみると、男性では「ほぼ毎日飲む」と回答した者が 31.3%と最も多く、女性では「飲まない」と回答した者が 71.8%と最も多かった。
- ・ 喫煙状況についてみると、男性では「吸う」と回答した者が 39.5%と最も多く、女性では「吸わない」と回答した者が 83.8%と最も多かった。
- ・ 睡眠時間についてみると、「6 時間」と回答した者が 36.3%と最も多く、次いで、「7 時間」が 26.9%、「8 時間」が 16.5%等の順であった。

### (4) 健康・悩み・ストレスについて

- ・ 健康上の問題による日常生活への影響について、「ある」と回答した者は 71.4%であった。
- ・ 日常生活での悩みやストレスについて、「ある」と回答した者は 80.5%であった。また、「ある」と回答した者(910 人)を対象に、悩みやストレスの最も気になる原因(1 つ)を質問したところ、「自分の病気や介護」と回答した者が 27.4%(249 人)と最も多かった。

### (5) 介護の状況について

- ・ 病院や診療所への入院、介護保険施設への入所状況についてみると、4.2%の者が入院中若しくは入所中であった。
- ・ 要介護認定の状況についてみると、40 歳未満の回答者を除いた 1,088 人(男 525 人、女

563人)のうち、114人(10.5%) (男31人、女83人)の者が要介護認定を受けていた。

(6) これまでにかかったことのある病気等について

- ・ これまでにかかったことのある病気等についてカテゴリ別でみると、「骨・関節の病気」に「あり」と回答した者が85.1%と最も多く、次いで、「皮膚・爪の病気」が82.5%、「その他の病気」が80.2%、「口の中の病気」が78.4%、「眼の病気」が74.4%等の順であった。
- ・ 具体的な症状等でみると、「腰痛」が69.4%と最も多く、次いで、「全身倦怠感(体がだるい)」が59.7%、「肩こり」が58.4%、「手足のしびれ」が56.8%、「皮膚の瘙痒(かゆみ)」が47.8%、「眼脂過多(めやに)」が43.9%、「虫歯になりやすい」が43.9%、「せき」が42.6%、「たん」が42.5%、関節痛が41.2%等の順であった。

(7) 油症発症当時の家族の状況について

- ・ 油症事件が発生した当時の同居家族の認定状況についてみると、家族全員が認定されている場合が47.7%、家族の一部が認定されている場合が33.8%、調査協力者のみ認定されている場合が5.4%であった。

(8) 調査票の自由記載欄について

本調査では、「油症発症後のご苦労・思い・社会的に受けた差別・研究してもらいたいこと・要望等」について自由記載欄を設けたところ、約630人の記載があった。いずれも貴重な意見ではあるが、個人情報を含む内容もあり、また、公表にあたっての認識が個人により異なることから、本報告書には主な内容を記載するとどめた。

なお、全国油症治療研究班等への要望については、それぞれ関係者に内容を伝えることとした。

※主な記載内容

- ・ 自分、家族の健康に関する不安、生活上のストレス等について(約340件)
- ・ 油症により受けた差別、偏見について(約80件)
- ・ 油症発症当時の状況について(約90件)
- ・ 職業(仕事)に関する苦労について(約20件)
- ・ 経済的な苦労について(約30件)
- ・ 治療法の研究開発への要望、期待(約110件)
- ・ 病院、医師、検診に関する要望(約40件)
- ・ 行政機関に対する要望(約100件)
- ・ カネミ倉庫に対する要望(約40件)
- ・ その他(約90件)